

和銅五年壬子の夏四月、長田王を伊勢の
齋宮に遣はす時に、山辺の御井にして作る
歌

八一番

山辺の御井を見がてり 神風の伊勢娘子ども
相見つるかも

八二番

うらさぶる 心さまねし ひさかたの 天のし
ぐれの 流れあふ見れば

八三番

海の底 沖つ白波 竜田山 いつか越えなむ 妹
があたり見む

長皇子と志貴皇子と、佐紀宮にして俱に宴す
る歌

八四番

秋さらば 今も見るごと 妻恋ひに 鹿鳴かむ山
そ 高野原の上